

ブルンジ月報（2023年10月）

1. 内政・外政

- 2日、バラダハナ公衆衛生・エイズ対策大臣、ドディオ環境・農業・畜産大臣、ムヤバガ行政・労働・雇用大臣、アバイエホ・東アフリカ共同体・青年・スポーツ・文化大臣の4人が新大臣に任命された。(SOS Media)
- 7日、ムレンゲラントワリ中央銀行総裁が、マネーロンダリングと公的資産の不正流用の疑いで逮捕され、8日にはンダイシミア大統領は同氏を解任。(BBC News)
- カタール商工会議所は、カタール・ブルンジビジネスフォーラムを開催し、両国の民間セクター間の商業・経済協力の強化策を検討した。会議には、ブルンジのニジンベレ商業・交通・産業・観光大臣とカタール商工会議所第一副会頭が出席。(7日付け、Gulf Times)
- 9日、ブジュンブラにて第4回女性リーダーハイレベルフォーラムが開催された。(Rwanda News Agency)
- 12日、ブルンジにおける国連特別報告者の任期の1年延長が決定。国連特別報告者はブルンジ政府や地元市民社会から批判されているが、国際組織からは意義を認められている。(SOS Media)
- ルワンダ国内のマハマ難民キャンプでは、100人以上のブルンジ人庇護希望者がルワンダのIDカードを違法に所持。彼らは難民認定されていないため、法的援助を受けることができないで状況にある。(15日付け、SOS Media)
- 17日、ソーシャルメディア上で政府を批判したブルンジ民主主義・持続可能な開発のための評議会 (Codebu) のニビジ代表は、国家の治安を弱体化させたとして、逮捕された。(The East African)
- 19日、少なくとも52人のブルンジ人がルワンダのマハマ難民キャンプから送還された。ルワンダ当局によれば、彼らは不法入国しており、認定されていない移民であるという。(SOS Media)
- 23日、FIFA 会長出席のもと、ブルンジがFIFAの「学校向けサッカー」プログラムを実施する100番目の国となった祝賀セレモニーが開催された。(Rwanda News Agency)

2. 開発協力

- 国連常駐調整官が、ブルンジ内の国連機関の成果について発表。ブルンジ政府は能力不足のため、国連から資金援助を受けても実行されていない開発プロジェクトが多数有ると報告。(26日付け、SOS Media)

3. 経済

- ディウフ駐ブルンジ代表率いる国際通貨基金（IMF）のチームが、9月25日から29日までブジュンブラに滞在し、ンディラコブカ首相、ニヨンジマ財務・予算・経済計画大臣、前ブルンジ中央銀行（BRB）総裁などと面談し、ブルンジの経済状況を調査し、全般的な経済危機と結論付けた。（23日付け、SOS Media）

以上